



令和6年3月11日

# 蒲刈中学校だより

発行：呉市立蒲刈中学校  
文責：校長 柿林 浩彦

第41号

## 第21回蒲刈中学校卒業証書授与式 学校長 式辞

豊かな自然と素晴らしい歴史を有するこの蒲刈島、下蒲刈島にも、一雨ごとに春の足音を感じられるようになりました。この春の到来は、卒業する皆さんが夢や希望に向かって巣立っていくことを後押しし、新しい門出を祝っているようです。

このよき日に、第21回呉市立蒲刈中学校卒業証書授与式を挙げる事ができますことに感謝申し上げます。

卒業生を今日まで育て、支えてこられました保護者の皆様、ご家族の皆様から心からお祝いを申し上げますとともに、本校に対してのこれまでのご支援、ご協力に対し深く感謝申し上げます。また、ご多用の中、ご臨席を賜りました、呉市教育委員会 教育委員 佐々木 元様、蒲刈市民センター長 狭間 泰成様を始め、ご来賓の皆様にお礼申し上げます。

思い起こせば、4年前の3月2日、新型コロナウイルスのため、全国の学校が一斉休校になったときから、卒業式などの学校行事は制限を設けながら行ってきました。しかし、今では普段の学校生活を取り戻し、このように多くの皆様のご臨席のもと、卒業式を行うことができたことを大変うれしく思っています。蒲刈中学校は、保護者の皆様はもちろん、多くの地域の皆様を支えられていることを実感しています。

ただ今、卒業生の皆さんに卒業証書を授与いたしました。卒業生の皆さんご卒業おめでとうございます。

義務教育の9年間を立派に修了し、中学校の3年間で更にたくましく成長するとともに、それぞれの新しい道に進もうとしている皆さんを心から祝福します。蒲刈中学校に入学して3年経ち、心も体も立派に成長した姿を見られて、保護者の皆様も感無量のことと思います。

さて、本日のお祝いとして、卒業生の皆さんに一冊の本を紹介いたします。この本には、詩人の宮澤 章二さんが



中学生のために書いた詩が納められています。宮澤さんは、約20年前に亡くなられているのですが、全国の小学校・中学校・高等学校の約300校の校歌を作詞するとともに、埼玉県の中学生のために約30年もの長い間、たくさんの詩を送り続けられたのです。これらの詩の中から、77編の詩がこの本には詰まっています。そして、全校生徒と先生方には、この本の中の詩14編を、今年の1月末から印刷・配付し紹介しています。表紙には、「青春前期のきみたちに」と書かれており、中学生のために書かれた詩なのですが、中学生ばかりでなく、世代を問わず、多くの大人も共感すると思います。また、「行為の意味」と大きく書かれています。



では、人間の日々の営みの中で生まれる「行為の意味」とは何なのでしょう。この本に載っている「行為の意味」という詩を紹介します。

この詩には、『『ころ』は自分にも他人にも見えないが、『ころづかい』は見えます。『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。』と書かれています。更に、「あたたかい心が、あたたかい行為になり、やさしい思いが、やさしい行為になるとき、ころも思いも、初めて美しく生きる。それは、人が人として生きることだ。」と続いています。この詩を読んで私は、「ハッ」としました。それは、私はその時の感情で、まわりに強く当たったり、冷たく当たったりしてしまい、心の中では申し訳ないと思うことがあるからです。そんなとき、申し訳ないという心が「ころづかい」になれば少しは救われるのではないかと思うのですが、なかなか行為となりません。

だからこそ、この「行為の意味」という詩は、私たちが自分らしく、自分にも他人にも優しく、そして、より自分自身が良く豊かに生きていくことを教えてくれたと思っています。現在もこれからも、世界の変化のスピードは想像以上に速くて、予測できない出来事なども起こると考えられます。ですから、変化に対応できる柔軟な考えや行動は必要です。更に、直接は見えない「ころ」や「思い」を大切にし、それが「思いやり」や「ころづかい」という行為に表れて、本当の意味で豊かで幸せな人生を歩んでほしいと切望しています。

最後になりますが、保護者の皆様には、本校の教育にご理解・ご協力を賜り、感謝申し上げます。11名の卒業生の皆さんは、3年間本当によく頑張りました。この素晴らしい出会いに感謝し、これからも卒業生の皆さんをずっと応援し続けます。これらも健康には留意し、元気に明るくポジティブに生きてください。

皆さんの前途が幸(さち)多いことを切に祈り、私の式辞といたします。

令和6年3月7日

呉市立蒲刈中学校長 柿林 浩彦